日本証券業協会
JSDA Japan Securities Dealers Association

資 料 7

「ICMA & JSDA Annual Sustainable Bond Conference」の模様について

2022年12月
日本証券業協会

10/4は証券投資の日

© Japan Securities Dealers Association.All Rights Reserved.

1. カンファレンスの概要等

本協会では、グリーンボンド市場等の動向について日本市場関係者の理解を深め、日本市場の課題等を探る機会として、2017年より毎年、**国際資本市場協会（ICMA）との共催カンファレンス**を開催している。

６回目となった本年度は、①脱炭素社会の達成に向けた**トランジションファイナンス**、②近年、国際的な資本市場で発行が増加する**サステナビリティ・リンク・ボンド**、及び③多様化するグリーン/ソーシャルボンド等の**資金使途特定型債券**に焦点を当てたカンファレンスを、実会場での開催に加え、オンラインでも参加可能とするハイブリッド方式により実施した。

また、カンファレンス前日には、発行体や市場関係者等の実務担当者を対象とした、ICMAスタッフによる実務研修（エグゼクティブ・トレーニング・コース）をオンライン開催した。

日程	**2022年11月18日（金）13時00分～17時25分（日本時間）**
タイトル	ICMA & JSDA Annual Sustainable Bond Conference 2022 ～　サステナブルな債券による脱炭素かつ公正な社会に向けた資金調達 （Financing a decarbonised and fair society through Sustainable Bonds）
会場	KABUTO ONE 及び Zoomによるウェビナー
共同主催者	国際資本市場協会（ICMA: International Capital Market Association※）、日本証券業協会
参加者	発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、その他の関係機関等　　約800名強（登録者ベース）

※ICMAは欧州を中心に世界約60カ国500の金融機関が加盟する国際団体（本拠地：チューリヒ）。本協会との間で2008年1月、相互協力に関する覚書（MoU）を締結し、本カンファレンスのほか、日本証券サミット（計5回＜いずれもロンドンでの開催分＞）も共催している。

2．カンファレンスのプログラム①

13:00 **Opening Speech**
日本証券業協会　会長　**森田　敏夫**
ICMA チーフ・エグゼクティブ　**Bryan Pascoe** 氏 （ビデオメッセージ）

13:10 **Guest Speech 1**
経済産業大臣政務官　**長峯 誠** 氏

13:20 **Panel 1**:クライメート・トランジション・ファイナンスを通じたカーボンニュートラルの実現に向けて

モデレーター：BofA証券取締役副社長、日本証券業協会 SDGs懇談会委員、ICMA理事　**林 礼子** 氏

パネリスト　：気候債券イニシアティブ（CBI） CEO　**Sean Kidney** 氏
経済産業省 産業技術環境局 環境経済室長 **梶川 文博** 氏
パナソニック ホールディングス 代表取締役 社長執行役員 グループCEO　**楠見 雄規** 氏
HSBC Bank plc マネージングディレクター サステナブルボンド・ヘッド（EMEA及び米国地域担当）　**Anjuli Pandit** 氏
三菱UFJモルガン・スタンレー証券　投資銀行本部　エグゼクティブ・ディレクター　ESGファイナンス&新商品室長　**田村 良介** 氏
第一生命保険 常務執行役員 投資本部長　**重本 和之** 氏

14:40 **Guest Speech2**
Glasgow Financial Alliance for Net Zero (GFANZ) Asia Pacific Network マネージングディレクター　**安井 友紀** 氏

14:50 **Panel 2**:資金使途特定型債券市場の発展とベストプラクティス(グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンド等)

モデレーター：ICMAグリーンボンド原則・ソーシャルボンド原則事務局　副CEO サステナブルファイナンス・ヘッド　**Nicholas Pfaff** 氏

パネリスト　：日本格付研究所 常務執行役員 サステナブルファイナンス評価本部長 **梶原 敦子** 氏
ナショナルオーストラリア銀行 サステナブルファイナンス・グローバルヘッド **David Jenkins** 氏
みずほ証券 サステナビリティ推進部 SDGsプライマリーアナリスト **香月 康伸** 氏
欧州投資銀行 （EIB） サステナブルファイナンス・IR ヘッド　**Peter Munro** 氏
BlackRock グローバル・債券-ESG投資リサーチ　**Mehdi Bary** 氏
マルハニチロ 常務執行役員　**坂本 透** 氏

2．カンファレンスのプログラム②

16:10 **Guest Speech3**
金融庁 長官　**中島 淳一** 氏

16:20 **Panel 3**:サステナビリティ・リンク・ボンドの日本市場における発展

モデレーター：大和総研 金融調査部ESG調査課長　**太田 珠美** 氏

パネリスト　：JPモルガン EMEA ESG デッドキャピタルマーケット・ヘッド **Paul O'Connor** 氏
環境省 環境経済課 環境金融推進室長　**今井 亮介** 氏
野村證券 サステナブル・ファイナンス部 サステナブル・ファイナンス担当部長 **相原　和之** 氏
PIMCO ポートフォリオマネージャー エグゼクティブ バイスプレジデント　**Ketish Pothalingam** 氏
ANAホールディングス上席執行役員 グループCFO　**中堀 公博** 氏

17:20 **Closing Speech**
ICMAグリーンボンド原則・ソーシャルボンド原則事務局　副CEO サステナブルファイナンス・ヘッド　**Nicholas Pfaff** 氏

3．今次カンファレンスのポイント

- 金利上昇局面にもかかわらず、**グリーンボンド、ソーシャルボンドといったサステナブルボンドの発行額・件数は比較的堅調に推移**。日本では、このペースで発行が進めば2022年度は前年度比を大きく上回ることが見込まれる。
- 日本の2050年カーボンニュートラル達成に向け、再エネの導入や水素の活用等に係る政策の動員も必要。全ての産業が脱炭素技術を直ちに実装できるわけではなく、また、脱炭素技術が確立していない産業も多く存在し、**技術革新なども活用しつつ着実な移行（トランジション）を促進していくことが重要**。
- 脱炭素化に向けた取組みは、**リスクと機会の両面が評価されるべき**。もっとも、現段階ではリスクの評価に偏重する傾向があり、企業側の具体的な移行計画と、金融機関・機関投資家側のポートフォリオの移行計画を策定し、「機会」もポジティブな評価に繋げていくことが重要。
- 一方で、**いわゆる「グリーン・ウォッシング」を懸念する声**も強まっており、今後は市場拡大のみならず、企業の取組みがESGに資するとどのように判断するのかも重要なテーマとなる。
- サステナビリティ・リンク・ボンド（SLB）やトランジションファイナンス（TF）など、従来の定番であったグリーン/ソーシャルボンド等の**資金使途特定型債券とは異なる特徴を有するサステナブルファイナンス手法も存在感が高まっている。**
- 欧州市場では SLBの発行件数が劇的に増加している。トランジションの道筋と関連付けた形での説得的な資金調達手段となるポテンシャルがあり、市場の期待は大きい一方、発展途上の市場であり、複数の類型の併存などその評価についてはまだ議論すべき点が多い。
- また、ジェンダー関連に資金使途を限定するジェンダーボンドや、海洋資源の保全を目的とする日本国内初のブルーボンドの登場など、**資金使途特定型債券の中でも多様化**が進んでいる。

4．カンファレンスの参加者数

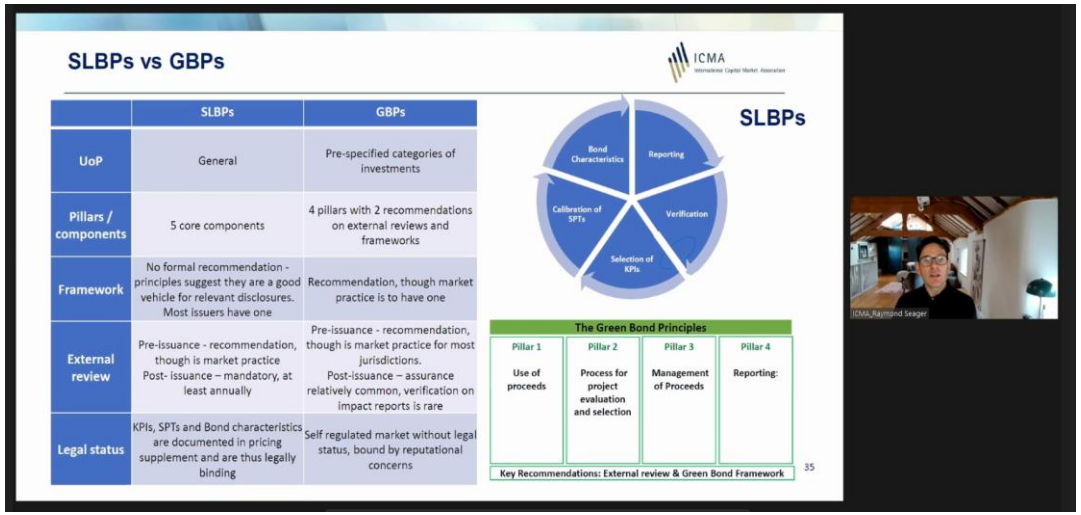
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
セルサイド	124	207	192	174	157	195
バイサイド	55	66	92	88	68	87
発行体（事業会社、地方公共団体、金融機関等）	58	83	155	181	140	233
業界団体	45	23	29	13	8	31
中央行政	12	15	16	52	32	16
シンクタンク	10	18	20	13	22	34
格付機関・外部レビュアー	14	20	20	18	13	29
情報ベンダー	7	4	14	7	5	20
メディア	11	16	33	22	15	6
駐日外国公館	0	16	9	18	17	19
その他	74	83	110	140	132	186
合計	**410**※1	**551**※1 (日本人483) (外国人68)	**690**※1 (日本人617) (外国人73)	**726**※2 (日本人420) (外国人316)	**609**※2 (日本人457) (外国人152)	**856**※2 (日本人487) (外国人369)

（※1　実会場参加者ベース）
（※2　登録者ベース）

5．エグゼクティブ・トレーニング・コースの概要

カンファレンスの前日には、主に今後グリーン／ソーシャルボンド、トランジションボンド、サステナビリティ・リンク・ボンド等の発行を検討中の発行体等の**実務担当者を対象に、各種原則等の策定に深く関わるICMAのスタッフが講師となり、サステナブルボンド発行にあたっての実務やグリーン／ソーシャルボンド原則のアップデート内容等について紹介**する「Executive Training Course」を開催した。

日程	2022年11月17日（木）17時00分～19時00分（日本時間）
会場	ZOOMによるウェビナー （※研修資料は翻訳の上、参加者に事前配布、同時通訳あり）
主催者	国際資本市場協会（ICMA）、日本証券業協会
参加費	無料
コース内容	**（歓迎の挨拶）**ICMA GB原則・SB原則事務局　副CEO サステナブルファイナンス・ヘッド　**Nicholas Pfaff** 氏 **（研修コース）**ICMA Program Coordinator **Raymond Seager** 氏 ● サステナブルボンドに関する実務ガイド ● 2022年におけるグリーン／ソーシャルボンド原則及び関連ドキュメントのアップデート ● クライメート・トランジション・ファイナンス＆サステナビリティ・リンク・ボンド ● Q＆A
参加者	主に事業者や地方公共団体等の発行体の他、 証券会社・銀行・（機関）投資家等の市場関係者（**参加申込者：202名**）



	SLBPs	GBPs
UoP	General	Pre-specified categories of investments
Pillars / components	5 core components	4 pillars with 2 recommendations on external reviews and frameworks
Framework	No formal recommendation - principles suggest they are a good vehicle for relevant disclosures. Most issuers have one	Recommendation, though market practice is to have one
External review	Pre-issuance - recommendation, though is market practice Post- issuance – mandatory, at least annually	Pre-issuance - recommendation, though is market practice for most jurisdictions. Post-issuance – assurance relatively common, verification on impact reports is rare
Legal status	KPIs, SPTs and Bond characteristics are documented in pricing supplement and are thus legally binding	Self regulated market without legal status, bound by reputational concerns

日本証券業協会 会長　森田 敏夫

ICMA チーフ・エグゼクティブ　Bryan Pascoe 氏 （ビデオメッセージ）

Opening Speech

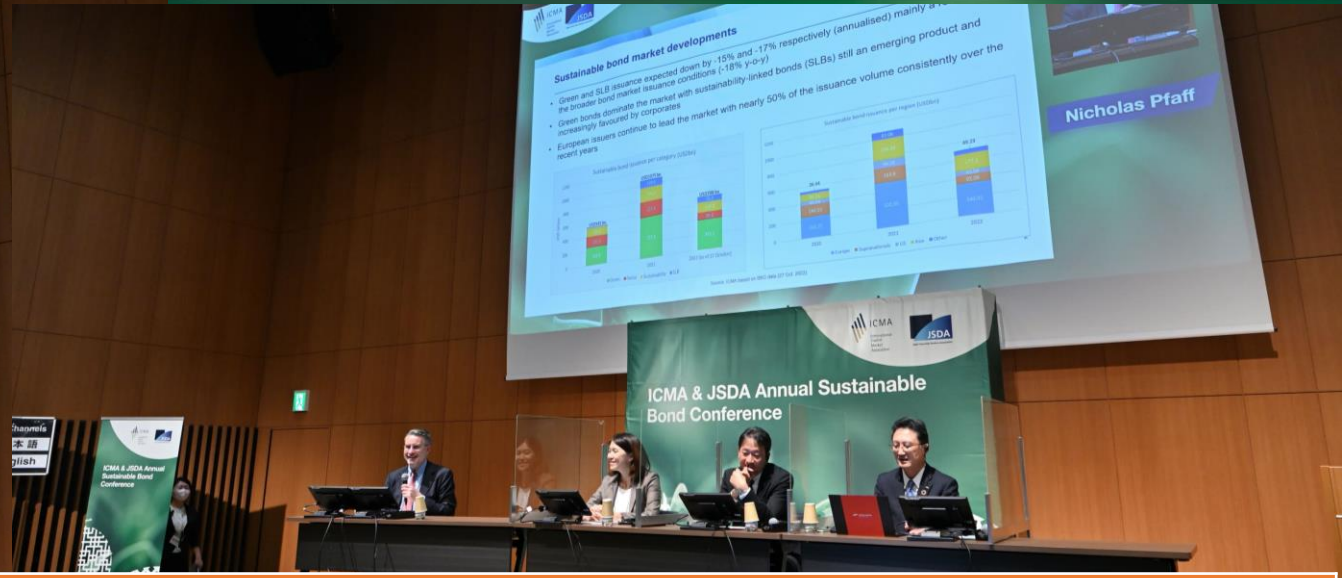
経済産業大臣政務官　長峯 誠 氏

Guest Speech 1

Panel 1　クライメート・トランジション・ファイナンスを通じた カーボンニュートラルの実現に向けて

Glasgow Financial Alliance for Net Zero (GFANZ)
Asia Pacific Network マネージングディレクター　安井 友紀 氏

Guest Speech 2



Panel 2 資金使途特定型債券市場の発展とベストプラクティス
(グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンド等)

金融庁　長官　中島 淳一 氏

Guest Speech 3

Panel 3
サステナビリティ・リンク・ボンドの日本市場における発展

ICMAグリーンボンド原則・ソーシャルボンド原則事務局　副CEO サステナブルファイナンス・ヘッド　Nicholas Pfaff 氏

Closing Speech

（参考）過去の開催実績等

【2017年】

“グリーンボンド及び社会貢献債市場の発展-アジアの展望”
日　時：2017年11月2日（木）
場　所：虎ノ門ヒルズ森タワー5Fホール
参加者：アジアの発行会社、銀行、証券会社、（機関）投資家、その他の関係機関、報道機関等　約400名

【2018年】

“グリーンボンド及びソーシャルボンド市場の発展-アジアの展望”
日　時：2018年12月11日（火）
場　所：ホテル　ニューオータニ　鶴の間
参加者：日本を中心とするアジアの発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、
在日大使館職員、その他の関係機関、報道機関等　約550名（昨年比約40%増）

【2019年】

“日本とアジアのグリーン、ソーシャル及びサステナビリティボンド市場の発展”
日　時：2019年10月９日（水）
場　所：ホテル　ニューオータニ　鶴の間
参加者：日本を中心とするアジアの発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、
在日大使館職員、その他の関係機関、報道機関等　約700名（前年比約30%増）

【2020年】

“コロナ禍において重要性を増す持続可能性に貢献する債券市場の発展－世界及び日本の展望”
日　時：2020年11月13日（金）
場　所：太陽生命日本橋ビル 26階　及び　ZOOMによるウェビナー
参加者：日本を中心とするアジアの発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、在日大使館職員、
その他の関係機関、報道機関等　約500名（うち430名オンライン）（前年比約30%減）

【2021年】

“いかに日本の債券市場が持続可能な社会に貢献できるか”
日　時：2021年11月12日（金）
場　所：ZOOMによるウェビナー
参加者：日本を中心とするアジアの発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、在日大使館職員、
その他の関係機関、報道機関等　約600名（オンライン）（前年比約20%増）